

集落ぐるみで農地管理

要約

ほ場整備を行い、面積が大きく管理しやすい農地が出来てきている五條市山陰、表野地区において、農業者の組織化、農地の共同管理を進めることで、省力・低コスト農業を実現する。特に、水稻栽培のコスト削減や収益性が高い新規品目の導入を行い、兼業農家がメインである集落での農地維持のモデルとする。

現状(背景)と課題

- 集落営農組織への農地集積
集積率89% (H25)
- 水稻栽培の省力化、低コスト化
水稻疎植栽培8.2ha (H25)
- 水稻以外の新規品目の作付け



目標

- 集落営農組織の法人化
- 農地集積率：96%
- 水稻疎植栽培：8.2ha
- 新規品目の作付拡大

活動内容

- 指導対象：営農組合『ゆめ野山』（組合員数：57名） *H26. 4. 1現在
- 打合せ：12回 → 集落営農の法人化に関する検討会
- 水稻栽培指導 → 定期的（月1回程度：5月～10月）にほ場巡回を実施。
生育状況の問題点とその対策について現場にて指導
- 試作ほ場の設置、指導 → 大豆栽培における摘心栽培、ホウレンソウにおけるトンネル栽培について実証展示

成果

- 農事組合法人ゆめ野山の設立（構成員数60名）
- 農地集積率：96%、農地集積面積：22.1ha
- 水稻疎植栽培：8.2ha
- 新規品目の導入：小麦（収穫年）・大豆 120a
ヤマノイモ（7a）、ネギ（16a）、ハクサイ、ホウレンソウ40a



法人設立総会の様子



ホウレンソウ



ハクサイ

南部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手係 上田、森岡
産地づくり係 櫻井、多田、堤
土地利用調整指導事業

普及活動のポイント

- ・法人設立にあたってのスケジュールや問題点の解決などについて指導。
- ・大豆、ホウレンソウなどの新規試作品目の適切な病害虫防除について指導。
- ・大豆の摘心栽培やホウレンソウのトンネル被覆栽培について指導。

対象の変化

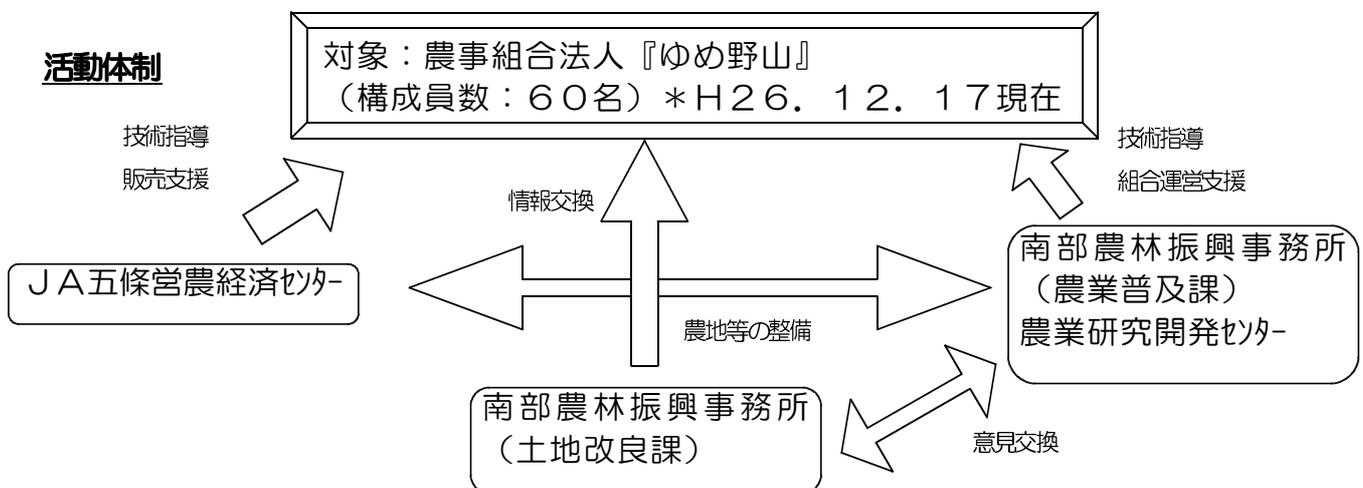
- ・法人化により、農業経営に関するコスト意識が芽生えつつある。
- ・リーダー役を中心とした自主運営が軌道にのりつつある。

対象者からのコメント

- ・水稲や新規品目の栽培管理について、積極的に組合員に参加してもらえる体制づくりが課題。
- ・営農組合での農地管理について維持する。ただし、特定の組合員に負担がかかり過ぎている。

これからの活動ビジョン

- ・収益性に優れた園芸品目の選定と作付面積の拡大による経営安定



用語解説

○農地集積

- ①農地の所有者が、自ら耕作等をできない場合、耕作できる個人や組織に農地を集めて、管理を依頼すること。
- ②小規模な農地の所有者が集まって、グループを作り、共同で農業を行う場合に、農地を組織に集めること。